お取引様各位

2024 年 9 月 30 日
ユアサ木材株式会社

平素は大変お世話になり、ありがとうございます。
各地駐在員、エージェントから入りました地域別産地情報を連絡させて頂きます。

No. 259

マレーシア

AA）トピックス

●マレーシア首相、「宗教間の憎悪をなくすべき」＝マレーシア・デイ

9 月 16 日、マレーシア・デイが盛大に祝われた。この祝日は 1963 年にマラヤ連邦、サバ、サラワク、そして当時のシンガポールが統合され、マレーシアが正式に成立した日を記念するもの。

マレーシア・デイに際し、アンワル・イブラヒム首相は「マレーシアの人々は、あらゆる形の宗教的過激主義と憎悪を拒絶しなければならない」と改めて言及した。これは 9 月 16 日にパダン・ムルデカで行われたマレーシア・デイ 2024 の祝賀会で述べたもの。

首相は、「人々の間での思いやりと愛を求め、マレーシアの国家形成の経緯から学ぶように」と呼びかけた。60 年以上前に国の自由のために戦った人々は、国とその国民のために戦う強い良心を持っていたと指摘している。

首相はすべての州に問題があることを認めたが、リーダーは「背景に関係なくマレーシアのすべての人々を助けるべきである」と強調した。

アンワル首相は、サバ州主席大臣ハジジ・ノール氏とサラワク州首相アバン・ジョハリ・オペン氏に対し、感謝の意を示した。「解決すべき問題があることを認めるが、私が首相になったとき、サバ州の首席大臣とサラワク州の首相が誠実に話し、善意で叱咤してくれたことは幸運だった」と述べた。

また、アンワル首相は 61 年前、東部 2 州が合流した「国の形成」につながった建国のリーダーたちの苦労と犠牲をマレーシア国民に思い起こさせた。ボルネオ島で国境を接する隣国インドネシアが最初にマレーシアの成立を阻止したことに触れ、「当時、サバとサラワクがマレーシア連邦に参加することを阻止しようとする試みがあった。しかし、今ではこれらの国々は私達の良き友である」と述べ、インドネシアからの強い反対があったことに言及した。

●好調な通貨リンギ、35 円の大台をついに突破

新興国通貨の中でも極めて高いパフォーマンスを見せているマレーシアの公式通貨リンギ（通貨記号 RM、リンギットとも表記）だが、9 月 25 日早朝に一時、1 米ドルが約 4.112 リンギまで上昇した。これは年初以来の最高値となっている。それに引っ張られる形で対円レートは 26 日早朝に 1 リンギが 35 円の大台を突破。過去 1 年で最も円安リンギ高の水準に達した。

これは、昨年末に予想された今年の対米ドルレートの上限である 4.43 リンギを大きく上回っている。な

お、今年に入ってからの最安値は 2 月 2 日の 4.79796 リンギ。
マレーシア国内のアナリストは、米連邦準備制度理事会（FRB）が 11 月 8 日に開催される次回の連邦公開市場委員会（FOMC）で「さらなる金融緩和を行う可能性が高いとの期待から、リンギが一日中強いパフォーマンスを維持したのではないか」との見方を示している。なお金融業界は、利率先物の動向から 50 ベーシスポイントの利下げを予測している。
一方、中国人民銀行（PBOC）は、一年物中期貸出制度（MLF）金利を 2.30%から 2.00%に引き下げ、経済成長を促進する措置を講じた。これもリンギ高への要素として後押ししている。中国政府は、今年の GDP 成長目標である 5.0%を達成するための取り組みを強化している。
一方、対円レートだが、米ドルが 160 円を超えた 7 月初旬でさえ、1 リンギは 34 円台の前半だった。こうしたことからもリンギのパフォーマンスの高さが突出していることがわかる。

BB）木材状況　:
マレーシア・デイの翌日 9 月 17 日に東京にて三国合板会議が行われた。非常に驚いたのは、マレーシアからサラワク 2 社、サバ 1 社だけの参加だったこと。過去に例をみない最低数。。これは日本のマーケットに対するマレーシア側の関心度の低さではないかと思われる。現在の市況を考えると、買い付けが難しい状況だが、生産者側としては、注文がなければ生産しないし、注文がもらえない相手は顧客ではないとの考え方に至ることも理解できる。このような状況が続くと、毎年行われてきたこの会議の意味合いがなくなってしまうのだろうか。次回は来年マレーシアで行う予定。

インドネシア

日本の法定最低賃金の時給は最も高い東京都と地方の格差があることは言うまでもないが、インドネシアでは地域差はその比ではない。最も高い首都であるジャカルタ州では月額 5,067,381 ルピア(約 40,261 円)であり、最も低い中部ジャワ州で 2,036,947 ルピア(約 19,400 円)と 2 倍以上の開きがある。インドネシアの最低賃金は市によっても細かく基準を定めており、ジャカルタのベットタウンであるブカシ市の最低賃金が最も高く 5,343,430 ルピア(約 50,890 円)となっている。インドネシアは国土が広く、人口 950 万人の首都ジャカルタと、ジャングルが広がる地方と比べると生活様式も物価も大きく違っているのであろうと一瞬考えるが、実はそうでもない。パプア州はもっともジャカルタから遠い地域となるものの、最低賃金はジャカルタに次ぐ。また、我々が購入する合板工場が多く存在するカリマンタンにおいても、特に北カリマンタン州のタラカン等は、物価が高い地域として知られており、当然最低賃金も高い（4,600,000 ルピア　約 43,800 円）。反対に、ジャカルタに次ぐ第二の都市として知られる、スラバヤは、近年カリマンタン島あるいはタラカンから移転してくる合板工場もあり、最低賃金は安く、一概にここインドネシアにおいては、物価水準は都市とジャングル地帯（田舎）という比較では語れないことにふと気づく。
数年前では考えられなかったことに、合板工場のワーカーのほとんどがスマホを手にしている。パプア州においても、情報が入る時代と共に物欲も高くなるが、輸送の問題もあり購買価格は高くなるのであろう。この辺りの物価メカニズムは我々日本とは違ったものであり、違った意味の地方格差が生まれているといえよう。
ジャングルから切り出されるラワン材が、実はコスト的には高い地域から出されていることは頭の片隅に入れていた方が良いであろう。

さて９月・10 月とインドネシアからの来客は多くなっている。この時期は涼しくなり台風シーズンも終わり過ごしやすいということでの来日ではあろうが、いよいよオーダー欲しさが顕著になって来ているのか？等と皮肉たっぷり。余裕のあった時代には、わざわざ冬に来日し、どこで買ったのかダウンジャケットを着こんで、「オー、雪だ！」とはしゃいでいる姿を見たものだが。

中国

９月初旬に発生したベトナム台風の影響を受け、ベトナム商品における今後の納期遅れを予測したスポット注文が中国に入り始めた。注文が入るや否や、中国側は船賃の高騰を理由に価格の値上げを通告してきた。何とも分かりやすい国である。船賃の変化は毎月起こるものであり、また昨今において船賃の値上げは各方面で発生しているので理解はできている。しかし、今回はタイミングが悪い。注文が入り始めた時に「値上げします」では買い手の気分や印象はあまりにもよくない。
必要とされる商品の供給を着実に行っていく為に、中国への切り替えを提案している我々の立場を理解して欲しいとは思うのだが、それがうまく作用しないのがこの国の“形”といえるのかもしれない。
今回の値上げ幅は、これまで低位で推移してきた中国産商品の価格帯と比較すると、9 月の取り決め価格は約 6%～10%の上昇となった。

習政権は、先端技術産業だけでなく食料自給率の向上にも力を入れている。気候変動や各地における紛争の影響により、農業は深刻なダメージを受け、2013 年以降の習政権は、大国としての条件を整えるために具体的な対策を講じてきたのである。
中国はこれまで工業製品の生産と発展を重視し、現代の IT 国家へと成長してきたのだが、その過程で当然ながら歪みが生じてきた。農村部の都市化が進んだことで農業従事者が減少、さらに国家政策としては、アメリカとの貿易摩擦を緩和するため、農産物の大量輸入を行ってきた。その結果、食料自給率の低下を助長してしまったのである。また、肉食文化の“普及”もその低下に拍車をかけており、畜産用の飼料用大豆やトウモロコシの輸入を拡大させていった。もし習政権が、飼料用の大豆やトウモロコシの国産化を目指していけば、ただちにアメリカとの貿易摩擦を高めてしまう構造が、定着してしまったのである。

2022 年以降、習政権は種苗の欧米集中化を打破するべく、自給率向上の根本的解決を図っている。私も認識レベルが低かったのだが、種苗（いわゆる原種）生産の殆どは欧米諸国産となっている。習政権はこれに警鐘を鳴らした。つまり、原種を持たない国は、いつまでもたっても欧米企業に食糧を依存せざるを得ないという事になるので、自国で種苗を生産できるようにしようという発想である。2013 年からの食料安全保障への取り組みを通じて、農業の発展に伴う新エネルギーとの融合や、農業と養殖業の複合産業の研究が進められ、年々成果が上がってきているというのが、今の中国なのである。

西側諸国寄りの情報ばかりしか伝えられてこない我が国の情報網では、中国のこのような先進的な情報は耳に入りにくい。今後においても、出来る限り正しい情報を掴んでいく上では、中国の別の側面を、これまでと違った情報網を通じて認識していく事が極めて重要だと考える。中国において、現在の良き部分の取り組みを知り、正しい側面を見落とさないようにする必要がある。

ベトナム

長く続いてきた産地の雨が、7 月下旬頃から具体的な材料問題を発生させ、各工場で単板不足の問題が深刻化し始めた。9 月初旬のベトナム北部を襲った台風の影響により、単板不足は更なる追い打ちをかけた。現在は復旧作業の真っただ中である。
台風の後で、当地を訪問した当社スタッフに話を聞いた。主力とされる合板工場や、LVL 工場に大きな被害はなく、被害があったとしても、工場の屋根が一部吹き飛んだ程度にとどまり、その工場も 2 日後には操業が再開されている。
ベトナム北部に位置する単板工場の多くは水害の被害を受けた。機械が水没し、使用不能になった工場も多くあったという。土砂崩れに巻き込まれた工場もあったが、人的被害は免れたようだ。一番の問題は、丸太を下ろしていくための道路が、ことごとく河川氾濫や山の中腹部からの鉄砲水により、アスファルトがえぐられ、道路の通行が出来なくなってしまっている事である。
今後の復旧活動によって、車の通行が可能になったとしても、植林の山は根が地中深くまで張っていない為、土壌が緩い。それにより、中小規模的な土砂崩れが至る所で散見され、その整備にも時間を要するようだ。

ベトナム人の気質なのだろうが、10 月半ばには材料が安定してくるはずだという。それを信じて、10 月半ばまで待つべきか、それとも回避する策を講じるべきか？ 判断に迷うが、11 月以降にずれ込むと、旧正月関連の各国契約とダブってくる可能性があり、価格リスクが付きまとってくる為、早めの回避判断をしておくべきであるとは思っている（今後の新規ご契約の商品においては、少々ゆとりを持ったご契約をお願いさせて頂けますと幸いです）。

9 月上旬、ベトナム北部に上陸した台風 11 号が、ベトナム北部の人工林に深刻な倒木被害をもたらした。特にバクザン省では 5,100ha、ランソン省では 2,000ha の面積が被害を受け、多くの木々が倒れ、貴重な森林資源が失われてしまった（東京ドームは凡そ 4.7ha）。その他の地域でも、イェンバイ、フートウ、ハノイ近郊地区と、被害は甚大であった。
農業農村開発省は、被害を受けた木々の中で保護できないものを処分する方針を示した。国際市場における木材チップや木質ペレットの需要が高まる中、同省は折れた小さな木々や枝を、これらの生産に活用する事を提案し、被害を最小限に抑えながら資源を有効利用するという狙いがあるようだ。
各省、各市の農業農村開発局は、被害の実態を詳しく調査し、人工林の所有者に対し、適切な処分方法を指導していく必要がある。山林所有者は生育が不可能と判断された木々を伐採後、良好な天候の時期を見計らって再植林を行う必要があり、再生可能な森林資源の育成が、今後求められる。

今回の台風被害による風倒木は、当然ながら植林樹種が多いのは事実なのだが、天然木もかなり多い。風倒木で倒れた天然木は、早速単板工場に“担ぎ込まれ”、単板となり合板 LVL 工場に運ばれる。この天然丸太の使用においては、今回の天災において風倒木の適正利用という、政府からお墨付きが得られる為、単板工場には良質な丸太が入荷されている所も散見されるらしい。我々が生産依頼をかけている工場にこの材単板が供給されれば、品質面でかなり安定した良質な FACE 材が入荷されて来る事だろう。もちろん一

過性の話ではあるが。

今回の台風被害は、日本ではほとんど報じられていない。また、ベトナムでも全てを報じ切れない被害が至る所にあるという。今でも孤立集落が散在し、今回の被害の規模は我々が完全に忘れた頃まで続いているのかもしれない。

ロシア関係

AA）トピックス　：

１）「チャイコフスキーの妻」：

悪妻という言葉から想起されるのは、世界三大悪妻で知られる彼女たちだろう。それは、ギリシャの哲学者ソクラテスの妻・クサンティッペ、モーツァルトの妻・コンスタンツェ、そしてロシアの偉大な文豪トルストイの妻・ソフィア。それぞれの理由から悪妻という不名誉な称号を戴いてしまった。ソクラテスは、「良い妻を持てば幸せになれる。悪い妻を持てば私のように哲学者になれる」という言葉を残している。そのため、ソクラテスの命日である4月27日は「悪妻の日」に制定されている。夏目漱石の妻も悪妻、猛妻と呼ばれているなど、どこの国にも存在しているワードだ。

そもそも悪妻と決めつける視点は常に男性側にあり、また特に家父長制度の強い社会で起こりがちである。夫婦間で不合理や不平を訴える女性のイメージが“悪妻”を形作っているのだろう。ジェンダー、多様性などが重視される現代社会において、将来、このような名称・単語は死語になるかもしれない。

「白鳥の湖」や「くるみ割り人形」などのバレエ音楽で広く知られるロシアの天才作曲家ピョートル・チャイコフスキー。彼の楽曲にはバレエ音楽や交響曲、ピアノ協奏曲だけでなく、こどもたち向けの小品も数多い。TVCMでも多く使用されている。今年5月に亡くなったキダ・タロー氏には“浪速のモーツァルト”という異名があったが、私的には“浪速のチャイコフスキー”と呼ぶ方が、その音楽性や楽曲群の曲調から考えると妥当ではないかと勝手に思っている。

さて今回のテーマに移る。先日日本で劇場公開された映画「チャイコフスキーの妻」についての話題に。この作品は、2022年に制作されたロシア・フランス・スイスの合作映画だ。かねてから同性愛者だという噂の絶えなかったチャイコフスキーは、恋文で熱烈求愛する地方貴族の娘アントニーナと世間体から結婚する。しかし女性への愛情を抱いたことがないこの夫婦の結婚生活はすぐに破綻し、夫から拒絶されるアントニーナは孤独な日々の中で狂気の淵へと堕ちていく・・・というストーリー。監督・脚本はロシアの鬼才キリル・セレブレンニコフ（2022年にロシアから亡命、現在はドイツなどを拠点に活動している）。歴史の陰に埋もれたアントニーナの実像を史実に従いながら大胆な解釈を織り交ぜて描いた。2年ほど前の産地情報で、若者たちから絶大な支持を集めたロックバンド「キノー」を取り上げた。このバンドメンバーで今でもカリスマ的存在であるヴィクトル・ツォイのデビューに向けたひと夏の体験を描いた映画「LETO」を監督したのもセレブレンニコフ。

女性の権利が著しく制限されていた19世紀後半の帝政ロシアを背景に、チャイコフスキーが同性愛者だったというロシアでタブー視されてきた事実を如実に描き、夫婦間の知られざる真実に迫るこの作品は、2022年カンヌ国際映画祭コンペティション部門に出品され、名だたる批評家たちの賛辞を獲得した。絵画

的な映像美や流麗なカメラワークなど、型破りなまでに刺激的な映像世界。フランスでは 17 万人超を動員する大ヒットを記録したという。チャイコフスキーに疎まれながらも想い続ける“世紀の悪妻”アントニーナの残酷な愛のかたち。ラストの狂乱のダンスは観客の心をかき乱す名シーンだ。アントニーナがチャイコフスキーを苦しめたという事実は、彼にまつわる音楽史にも記されている。彼女の熱烈な愛情は凄まじい。19 世紀の帝政ロシアという女性の権利などないに等しかった時代に離婚を突き付けられても、彼女は「あなたは永遠に私のもの」と拒否し、「私はチャイコフスキーの妻よ（Я жена Чайковского）！」と叫び続ける強靭な意思の持ち主だったのだ。

結婚したにもかかわらず、チャイコフスキーは夫婦生活を拒みすぐに別居。その後 40 年間、離婚を拒み続けた妻に一度も会わなかったという。でも彼女は彼を心から愛し続ける。この映画を制作するにあたり、セレブレンニコフ監督は非常に苦心惨憺したという。多くの手紙類は当局の手によって検閲、保管されているため、彼は過去の出版物を手掛かりに、アントニーナを精神的に追い詰めていった事実を残された書簡や日記からしか紐解くほかなかった。そして自由のない時代に生きることの難しさを思い知らせる映画でもあった。ロシア正教という宗教が社会の基盤になっていた時代、ロシアも例に漏れず家父長的社会だった。セレブレンニコフ監督は「彼女が本当に世間で言われているような愚か者なのかと疑問に思い、さらに掘り下げてみたくなった」とインタビューで答えている。監督は映画で、19 世紀後半の貴族の邸宅や街並み、教会、劇場、音楽院、衣装など当時のロシア社会の光景や風俗をたっぷりみせる。劇中の会話のほとんどはロシア語、当時のロシアの貴族が使用していたフランス語が一部で話される。

私は読んだことはないが、チャイコフスキーの自伝でアントニーナが登場するのはわずか数ページらしい。チャイコフスキーの作曲に影響を与えたことはなく、“忘れられた妻”とか、その行動から“悪妻”という不名誉な形容がなされてきた。なぜ結婚したのか。当時の社会的制約から、自分が同性愛者であることをカムフラージュするためだったのか。「静かで穏やかな愛ならば」と結婚を受け入れたとき、チャイコフスキーはそう話した。
ある識者の言葉を紹介する。「チャイコフスキーは自己の性癖などをカミングアウトしたが、彼女は責めたりそれを逆手にとったりするようなこともしなかった。彼は結婚を決意するが、恋愛感情からというよりは、彼女が親の遺産 1 万ルーブルを持参金にとほのめかしたことが大きかった」。果たして真相は。

映画「チャイコフスキーの妻」のチラシ

チャイコフスキーは結婚した年、交響曲第４番とロシア文学の父・プーシキン原作のオペラ「エフゲニー・オネーギン」を作曲していた。「オネーギン」の始まりは、田舎の女地主の長女タチアーナが、隣に住むことになったペテルブルクからやってきたオネーギンに一目惚れする。タチアーナはオネーギンに手紙を書く（「手紙の場」の章）。しかし、オネーギンは「自分は家庭生活に向かない。あなたは妹のようにしか思えない。自制の心を学びなさい」と拒む。チャイコフスキーはこの「手紙の場」から作曲を始めたという。これはまさにアントニーナとの関係性を暗示しているものではないか。

何だかまとまりがつかなくなってきたが、アントニーナは、ロシアで巷間伝えられるほど酷い悪妻ではなかったとの印象を強く持った。晩年彼女は長く精神を患わって亡くなっていったといわれているが、果たして本当に精神を病んでいたのかどうか。その方が都合がいいと考えた当局がでっち上げたに違いない。悪妻なのかどうかを推理し見極めることよりも、この映画は結婚式やラストのダンスシーンを観るだけでも価値があると思った。エログロのシーンもあったが、それはご愛嬌ということで。

２）「プーチンと ICC」：
ロシアのプーチン大統領が今月初めに、国際刑事裁判所（ICC =International Criminal Court=）加盟国のモンゴルを訪問した。ICC がウクライナ侵攻をめぐる戦争犯罪容疑でプーチンや側近に逮捕状を出して以降、プーチンが加盟国を訪れるのは初めてだ。故に、今回モンゴル政府の対応に注目が集まっていた。加盟国には逮捕義務があるものの、結果的にモンゴル政府は逮捕せずに歓迎した。これがロシアとの関係を保つ他の加盟国にとって前例となるおそれもある。

オランダ・ハーグにある国際刑事裁判所

プーチンは今回、日本軍とソ連軍が衝突したノモンハン事件 85 年の記念行事に出席し、モンゴルのフレルスフ大統領らと会談した。ICC はプーチンに対して、昨年 3 月、ウクライナからの子どもの連れ去りに関与した容疑で逮捕状を発行。その後、プーチンの外遊は激減していた。今回の訪問に先立ち、ロシアの大統領報道官は「モンゴルとの間に問題はない」と強調していたため、事前に逮捕しない約束があったとみられている。一方、ロシアと中国との友好関係が外交の柱であるモンゴルは、今回はロシアの顔を立てる形となった。恩を売ったとはいえないだろうが・・・・。侵攻でのさらなる戦争犯罪を抑止するため、ICC がプーチンに逮捕状を出す決断をしていただけに、今回の訪問は、国家元首の逮捕をめぐる議論を再燃させる可能性がある。国際慣習法では国家元首は原則として逮捕を免れるとされるが、ICC は、戦争犯罪などの場合は「例外」として逮捕できるという立場をとっている。

ソ連時代から強い影響を受けてきたモンゴルは、石油・石油製品の約 9 割を今もロシアからの輸入に依存している。ウクライナ侵攻では立場を明確にせず、国連総会のロシア非難決議は棄権した。一方で、欧米や日韓などとの関係も重視し、今年 3 月にはモンゴルの元最高裁判事が、18 人いる ICC 裁判官のひとりとなった。こうした状況に同国の元外交官は、「国際社会の批判は予測しているが、国益のためにはプーチン氏を招き、ロシアとの関係を保つ選択肢しかなかった」と説明している。ただ、歓迎式典の直前には広場のそばで男性市民が警察官に連行されながら、「プーチンは殺人者だ。逮捕しろ」と叫んだ。プーチンの訪問直前には、市民数人がウクライナ国旗を掲げて抗議。参加した女性は「本来なら逮捕すべきだが、その力がこの国にはない」と嘆いた。こうした状況をどうみていけばいいのか。モンゴルの全方位的な外交が無になる恐れもあるとの懸念がある。モンゴルに多額の支援をしてきた日本にとっては、追い詰め過ぎることで中ロがより一層接近する事態に陥ることは賢明ではないというもどかしさもある。

10 月に自国で新興国グループ「BRICS 首脳会議」の開催を控えるプーチンは、ウクライナ侵攻の和平協議などをにらみ、新興国との関係強化を狙っている。昨年 8 月に ICC 加盟国の南アフリカで開かれた BRICS 首脳会議では対面参加を見送り、事実上外遊が制限されてきた。だが、その後相次いで中国を訪問、6 月には北朝鮮とベトナムを歴訪するなど再び活発化している。いずれも ICC 非加盟国だったが、今回のモンゴル訪問を突破口に多くの国への訪問の機会をうかがう構えだ。
プーチンは今回のモンゴル訪問で多くの益を得た。一方、ICC 加盟国のモンゴルがプーチンを招き、逮捕状が出ているにもかかわらず逮捕しなかったことで、ICC の権威が低下したことは間違いない。先に述べたように、現職の国家元首を拘束や逮捕できない原則があるとはいうが、一事が万事。今までのプーチンをめぐるこのような対応が彼を増長させてきた。ウクライナ侵攻しかり。プーチンは国際社会をなめ切っ

ている。

ICC は、個人を戦争犯罪などで裁くためには、恒久的な裁判所をつくるべきだとの議論に基づき、2002 年にオランダのハーグを本部として設立された。日本は 2007 年に加盟し、今の所長は赤根智子さんという日本人女性である。ただ、米国やロシア、中国といった大国は、ICC の締結国になっていない。その理由は、自国の指導者や自国民が処罰されるのではとの懸念を払拭しきれないことにあると考えられている。米国はプーチンへの逮捕状は歓迎する一方で、イスラム組織ハマス幹部やイスラエルのネタニヤフ首相に対しては、ICC が逮捕状を請求したことに反発している。これだけではなく、米下院は ICC 関係者に経済制裁を科す法案を可決している。つまり ICC は、ロシアのみならず民主主義の旗振り役を自任する米国からも圧力を受けている。この米国の対応について、英国やフランス、イタリアなど多くの締結国はその危険性を認識し、締結国会議で「法の支配」の重要性と ICC の保護を宣言する声明を出している。大国が「力による支配」に傾いている状況下、日本は締結国のメンバーを増やすなどの役割を担うことを目指すべきではないだろうか。日本人初の所長の任期中に・・・・。

BB) 産地現状 :

8 月末の首都圏におけるロシア製品の在庫数量は 25,100m3 と前月より 1,400m3 ほど増えた（直近の在庫量は約 29,000m3）。因みに 1～8 月の入荷量は約 363,000m3 だった。

赤松垂木輸入製材品の産地価格は、ここ数カ月間は保合で推移している。産地の製材メーカーでは、中国向け販売が不振であることで、対日向けの販売意欲が強まっているときく。また、丸太伐採の減少と物流の混乱が原因となり、生産の低下が目立つ。冬伐り材が出てくる年明けまで、供給量が低水準で推移することは間違いない。

国内市場は極めて静かだ。停滞している。新規オファが少ないときに円高に向かったことは皮肉。需要の停滞と供給量の減少により、低水準で需給が均衡している。そしてそれが価格維持につながっている。この傾向は冬伐り材を待つまで続くだろう。

ニュージーランド関係

AA) 商況/産地現状 :

ニュージーランド産ラジアタ松丸太に影響を及ぼす中国では、対ドルで人民元が強いこと、及び秋需要もみられ、若干ながら価格は強含み。NZ の産地では電気代や生産コストの高騰で、製材メーカーの間では生産停止や操業の短縮も出始めているという。

8 月末の NZ 産丸太の入荷ロットは、前回比数ドル高いの上、為替が 150 円台。このロットは 11 月末か 12 月初めに挽くことになるので、その間の原料コストは高く付く。次回の丸太の入着は 11 月ごろになるため、産地価格いかんによるが、為替分コストは少し下がる可能性はある。

日本国内に目を移すと NZ 産ラジアタ松国内挽きの荷動きは下降気味。長尺や太角の仕事が減っているときく。スポット的な大型サイズの要望が減れば減るほど、NZ 材の荷動きがさらに鈍ることになる。国産杉丸太は、バイオマス燃料向けの引き合いが好調で、尺上丸太もそれと競合しているので、価格は強含み。いずれにせよ、梱包需要のより一層の回復が期待されている。

BB）トピックス（「観光税の値上げ」）：
ニュージーランド政府が、外国人観光客に課す国際観光客保護・観光税（IVL = International Visitor Conservation and Tourism Levy=）を 10 月から約 3 倍に値上げするという。今は 35NZ ドルだが、外国人観光客は今後、100NZ ドル（約 8900 円）を支払うことになる。ただし、オーストラリア人と一部の太平洋諸島の住民は対象外。外国人観光客の数が増える中、今回の値上げは観光と自然保護の課題に対処するためのものだと説明している。

NZ 企業・技術革新・雇用省（MBIE）によると、IVL は「観光と自然保護における現在の課題に取り組む」ためのもので、NZ 国民が海外からの観光客に関連するコストを「不当に負担する」ことのないようにするという。NZ では近年、海外からの観光客が大幅に増加しており、MBIE はその影響で NZ において、「インフラ、環境、地域社会、特定の地域における観光業の社会的な認可」が問題になっていると指摘している。ただし、前述した住民たちや NZ で乗り継ぎをする旅行者は値上げの対象外。IVL は害虫駆除や生物多様性への投資、観光地への訪問者のアクセスの強化など、さまざまな観光および環境保護の取り組みを支えるために使われてきた。5 月から 6 月にかけて募集した IVL の変更案に対するパブリックコメント（意見公募）には約 1100 件の意見が寄せられ、その 88%が現在の水準では、観光と自然保護が直面する問題に対処するには不十分であることに同意した。また、寄せられた意見のうち 93%が IVL の値上げに賛成しており、値上げ幅が一番大きい 100NZ ドルへの変更に賛成する声は半数以上を占めた。MBIE によると、IVL の値上げによって年間約 2 億 2900 万 NZ ドルの収入が見込まれる。

NZ 政府観光局が 2023 年に公表した調査結果によると、NZ の住民がゴミの増加や駐車場の確保が難しくなったこと、交通量の増加など、観光が地域社会に悪影響を及ぼしていると感じていることが分かった。 また、調査対象者の約 3 分の 2 が、観光が環境に及ぼす影響に懸念を示した。NZ 王立協会によると、観光客が押し寄せることで混雑や動植物の生息地の破壊、野生生物の妨害、騒音公害を引き起こす可能性があるという。観光業は NZ にとって経済の 3.7%を占める主要産業のひとつである一方で、NZ の自然のランドマークに直接的な影響を及ぼしている側面も併せ持つ。

日本も観光産業の振興に力を入れているが、多くの観光地においてオーバーツーリズムが問題化している。姫路城の“入城料”を「二重価格」に設定しようとする試みをはじめ、各地で対策が講じられている。観光開発や観光客の増加は、地域に経済的な豊かさをもたらしたり雇用を創出したりするなど、プラスの側面が多い。その一方で、観光地における交通渋滞や自然破壊などが起こる観光公害をもたらすマイナス面もある。観光地のみならず、地域住民の生活環境への影響が最近とみに問題視されている。両立は難しいと思うが、一定の観光税アップといった「二重価格」はやむを得ないと考えるが、如何だろうか。

欧州関係

AA) トピックス ：

１）「パラリンピック(Paralympic)が終わって」：

パリ 2024 パラリンピック競技大会が無事閉会した。日本代表チームのメダルラッシュが話題になったが、競技大会の趣旨を思うと、戦績に優劣をつけることにあまり意味はないと思ってしまう。

はるか昔のこと、第一回目のパラリンピックは 1964 年の東京だったときいたことがあった。パラスポーツの元祖は日本人だったということに、なぜか誇らしい気持ちを抱いた。その後、パラリンピックの原点は、英国にあるストーク・マンデビル病院で始まったことにあると知った。第二次世界大戦中、この病院に戦争が原因で脊髄を損傷した人たちを治療する科ができた。そこである医師が、脊髄を損傷した下半身麻痺の人たちがスポーツでリハビリできないかと考え実行する。それが、病院の敷地内で車椅子の患者たちが参加するストーク・マンデビル競技大会（Stoke Mandeville International Games）の始まりで、パラリンピックの原点とされている。

1948 年に開かれた最初のストーク・マンデビル競技大会

今、第一回パラリンピックがいつどこで始まったのかという“命題”は、1964 年東京オリンピックの前の大会、1960 年ローマ大会であると位置付けられたことで決着している。この大会は、第 9 回国際ストーク・マンデビル競技大会の名称で開催された一面も持つ。この大会では、脊髄損傷による下半身麻痺の人だけが選手として参加したという、その後、同競技大会には、四肢切断者など他の障害を持つ人たちも参加するようになる。その過程において、英国の医師たちは「ストーク・マンデビル競技大会」という名称にこだわったという。そこで日本人医師の発案があった。大会を二部制にするというものだ。広く全身体障害者の大会にするために、第一部はストーク・マンデビル競技大会（車椅子使用の選手）とし、第二部は全身体障害者を対象にした日本人選手だけの国内大会。そのふたつを合わせて「東京パラリンピック」と呼ぶようになる。これら経緯により、第一回目のパラリンピックは 1964 年の東京とみなされるようになったのではないか。蛇足だが、五輪とパラ大会の連携は歴史が浅いと知った。夏季大会で正式に同じ組織委員会が運営したのは 20 年前のアテネ大会。

パラリンピックはもちろん造語。パラとは対麻痺（下半身麻痺）を意味するパラプレジア（paraplegia）や平行を意味するパラレル（parallel）からとった。1964 年東京大会を前に、この造語のパラリンピック

の名称が人目を惹き付け知名度が向上した。チャリティコンサートが開かれるなど寄付金を得ることもできた。今と比べるとまだお粗末ながらも、リフト付きバスやオリンピック村や競技会場に段差解消のスロープや手すりなどバリアフリーの設置も進んだ。

今も世界で多くの紛争が続いている。パラリンピックに参加する選手たちの中にも、無意味な戦いの犠牲になったことが原因で障害を持つに至った人もいる。パラリンピックの原点は戦争が引き起こしたことを再確認し、競技を観戦する際には強く反戦への思いを馳せる人が少しでも増えることを今後とも期待する。無論、事故や病気で障害を受けた人への労りと環境づくりにも尽力することも忘れてはならない。

２）「旧東ドイツ市民は二級市民？」：
ドイツ内務省は不法移民らの流入を防ぐため、このほど隣接する全 9 カ国との陸路の国境で一時的に国境審査を導入する方針を発表した。ドイツ西部で 8 月に過激派組織「イスラム国」（IS）のメンバーの疑いがあるシリア人に 3 人の市民が刺殺された事件などを受け、治安維持の観点から国境管理の強化を求める声が強まっていた。

同省の発表では、既にオーストリアやポーランド、チェコ、スイスの計 4 カ国との国境では警察官による国境審査を実施し、滞在許可証などを持たない不法移民らの入国を取り締まってきた。今回、新たにフランスやルクセンブルク、オランダ、ベルギー、デンマークの残り 5 カ国との国境でも約 6 カ月間、同様の措置を取ると欧州連合（EU）の行政機関である欧州委員会に通知した。

当局の話では、ポーランドなど 4 カ国との国境では、対策を強化した昨年 10 月半ば以降、3 万人以上の入国を拒否したという。内務相は今回の措置について、不法な移民を減らすとともに「過激なイスラム主義者のテロリズムや国境を越えた重大な犯罪の深刻な脅威から守る狙いもある」とし、治安の強化を図る狙いも強調した。ドイツでは移民排斥などを掲げる右翼政党「ドイツのための選択肢（AfD）」が今月行われたドイツ東部の州議会選で第 1 党になるなど勢いを増していることもあり、政府は不法移民らの送還などの対策を進める方針を示していた。

話を AfD の躍進に移す。
繰り返しになるが、今月初めに行われたドイツ東部の州議会選で、移民排斥などを訴える右翼政党「AfD」が 2013 年の結党後初めて州レベルで第 1 党になった。ナチスの歴史を持つドイツでは過激な右翼主義への警戒が強かったが、AfD 躍進の背景には何があるのか。移民排斥云々の政策的な観点から説明することも可能だが、ほかにも統一から 34 年経ってもなお今も残る“東西格差”がある。
AfD が支持を広げているのは旧東ドイツ地域だ。そのひとつのチューリンゲン州の都市ズールは、東西ドイツ統一前は地域の行政の中心として 6 万人近くの人口を抱えたが、西側への流出や少子高齢化で今では 4 割減となったという。地元に工場があった旧東ドイツを代表するバイクメーカーは競争に敗れ 2023 年に閉鎖。ほかにも大規模工場が次々と消えたという。
現地からのレポートを読むと、これら地域の市民は「我々は取り残されている」との声を上げているという。AfD を支持する年金生活者は「政府への抗議だ。既成政党はもう信じない」と話す。大学の政治学の教授は、旧東ドイツでの AfD 躍進の理由を「ひとつには旧東ドイツの人々が“二級市民”のように扱われ

ていると不満を感じていることがある」と説明。それが、既成政党を批判するAfDが不満の受け皿になった一因だとみている。旧東ドイツに在るライプチヒ大学などの調査によると、ドイツの企業や、政治や文化などの組織のトップら、いわゆる「エリート層」と呼ばれる約2800の役職において、旧東ドイツ出身者は 12%だった。約 20%と推計される旧東ドイツ出身者の人口比でみても少ない。ドイツでは来年秋に総選挙を控えている。政府がこの“東西格差”の是正に取り組まない限り、AfDの伸長はさらに続くだろう。

私はこの政党の躍進を非常に懸念している。ユーロ圏からの離脱を掲げて発足したAfD、シリア内戦などの影響で2015年に欧州に難民申請者が急増した頃から反移民・難民に軸足を置き、支持を拡大してきた。17年の総選挙で第二次大戦直後の混乱期を除き初めて、右翼政党として連邦議会の議席を獲得した経緯がある。ナチスの反省から極右の動きを監視する独情報機関は、同党の排外的な主張などから“右翼過激派”の疑いがあるとして今も監視対象としている。このような状況下にありながら支持を増やしている現実をよく把握し、かつ有効な政策を掲げなければ、一層混乱を招くことになるだろう。

ドイツ統一後、東ドイツ市民は幾度となく二級市民と呼ばれたことがあった。社会に不安が生じたときに、決まってこの現象が起こる。日本でもかつて存在した。ドイツだけでなく、欧州各地で伸長する右翼政党。大きな政治課題をはらんでいる。

BB) 欧州材状況 :
首都圏の欧州製品の8月末の在庫数量は、61,000m3程度と先月末に比べ約10,000m3増えた（直近の在庫量は約65,300m3）。因みに8月の日本全国への製品入荷量は約22.5万m3。2024年5月は約20.5万m3、6月約16.1万m3、7月は約27.8万m3だった。今年1～8月の入荷量は約148万3500m3、前年同期比で35.1%増。

集成材の引き合いは鈍いが、8月に比べると幾分回復しつつあるとの見解もある。少ないながらの秋需ということだろうか。とはいえ、7、8月に輸入完成品の入荷が想定以上に多かったため、在庫状況によっては、国内集成材メーカーの受注回復に時間がかかるかもしれない。
今月に入り、国内産Rウッド、及びWウッド集成平角と競合する米松ムク平角が、主力サイズを値下げしたことの影響が懸念材料となってきた。集成材平角については、現状ではこの夏に値上がりした水準を維持しているが（価格上げが市場でも容認された）、これは変容しそうだ。
国内需要と相場がともに先行き不透明になったことで、欧州産地との第4四半期契約分の交渉は厳しくなりそうだ。大勢が固まるのは10月に入ってからになるだろう。前回の第3四半期契約では、産地が記録的な円安を背景に産地価格を下げる調整を行った。今回は円高に振れていることもあり、前回の調整分の回復を期待している。
欧州の各製材メーカーは、原木高や人件費、燃料費などの高騰による生産コストの上昇で採算が悪化しており、今は減産やレイオフで対応している。しかしながらそれにも限界があり、この状況が長引くようだと、操業停止や廃業にまで至ることもあるときく。欧州域内や中国向け市場も芳しくなく、頼るのは比較的安定している日本市場というが、それとて心許ない。

一方羽柄製品であるWW間柱の状況。荷動きの悪さから各港で在庫が増えている。9/10月積み交渉は始まってはいるが、これらが影響し遅々として進んでいない。産地からは、このところの円高を引き合いに出し、概ね値上げを主張している。羽柄材生産の現地各メーカーも例に漏れず、生産コストの上昇による採算悪

化に苦慮しており、価格を前回よりも少しでも上げたいと考えているようだ。とはいえ、日本市場を重視する各欧州シッパーは、価格調整をすることも十分考えられる（現地価格の下げ）。
日本の需要家の動きだが、懸案事項は価格ではなく、手持ち在庫の処分をいかにするかにある。先物での成約を今年いっぱいはやめておくとの声もきかれる。9/10月積みについては、成約数量を絞ることが日本市場にとって有効だ。大手シッパーの中には、9/10月積みをスキップする動きをみせる。といいながら、フリー玉が入ってくるケースがこれまでも多々あった・・・・。同じことを繰り返している。

北米関係

AA）トピックス（「ジョニーは戦場へ行った」）：
二度の世界大戦のような広範囲にわたる戦争を長く経験していない私たちだが、地域紛争や小競り合いは今もあちこちで発生し減ることはない。「戦争なんてみんな同じで誰にとってもいいことなんかひとつもない」とか発言しようものなら臆病者呼ばわりされるのがオチ。いつも自由を求めて市民（兵士）は戦ってきたとされてきた。さらに独立とか解放とか良識とか名誉とか“お国”とか、どうでもいいことのために戦っている。今の戦争の目的は民主主義と小国と万人のために世界を安全な場所にするためだという。戦争が終わればそれは実現するのだろうか。どんな種類の民主主義？　どの程度の？　誰にとっての？　戦う名目の解放や良識にしてもそう。誰を何から解放するため？　良識とは誰が考える良識？　誰のための？ これらのために多くの人たちが殺されていく。殺す側の精神も崩壊していく。名誉、お国、これは一体何なんだ。自由や独立や民主主義や解放、良識、名誉、お国のために犠牲になって命を落とすことに価値はあるのか。気高い死とか聖なる血とか、そんな見せかけだけの美辞なんか欲しくないと言えば、他人から謗りを受けるだろうが、その他人とは一体どんな立場にいる人種なのだろうか？

そんなことをダルトン・トランボの小説「ジョニーは戦場へ行った」を読み返した後に考えた。随分前に映画化されたこの小説を文庫本で読み、映画も観たのだが、その時は本質的な部分はほとんど理解できていなかった。皮相的・エログロ的な好奇の印象だけが頭に残っていた。後にトランボが 1940 年代に米国で起こった赤狩りに反対したいわゆるハリウッド・テンのひとりだと知った。因みにこの 10 人のリストに載っていないが、ブラックリストには、オーソン・ウェルズやチャールズ・チャップリン、アーサー・ミラーなどの著名人もいた。トランボが赤狩りの影響を被る苦難の日々を送ったことを知り(映画「トランボ ハリウッドに最も嫌われた男」に詳しい)、いつかこの小説を読み返そうと思っていた。その新訳版がつい最近新書本で出版されたのを機に、再読した。そこであれこれ感じたことが冒頭で述べたものだ。

ストーリーを簡単に述べる。
・舞台は第一次世界大戦下のアメリカ。陸軍医療隊の大佐の元に大怪我を負った米兵が運ばれてきた。軍医たちは深くえぐれた顔を縫合し、負傷した両手足を切断する。胸と腹部、そして脳髄だけが無傷だった。つまりこの負傷兵はまだ生きていた。大佐たちは彼を負傷兵 47 番と称し軍で“所有”することにする。意識のない生ける肉塊の負傷兵 47 番は、他の負傷兵を救うための恰好の研究材料だった。
・彼が激しく執拗な身体的運動を続ける時は反射性の筋肉痙攣とみなし、鎮静剤を打つようにと看護師たちに指示が出される。関係者のほとんどが 47 番を人間扱いしなかったが、彼は少しずつ意識を取り戻していく。彼の名はジョー・ボナム。ジョーは恋人カリーンのことを思い出す。戦わず逃げて欲しいと何度

も頼んでいたカリーン。しかしジョーはカリーンの願いを振り切って戦場に赴いた結果、爆撃を受け負傷してしまった。
・占領軍の基地病院へ搬送されたジョーは、意識は取り戻したものの、何も見えず何も聞こえない状況に困惑する。ジョーはさまざまなことを思い出す。カリーンとの愛、釣り竿を大切にしていた父親、そしてその父が死亡した夜のこと。時間の経過すら曖昧なジョーは現実を「ただの夢かも」と考えるようになっていく。ところがある日、両手足を失っている事実に気付いてしまう。あまりのショックに叫ぼうとするが、ジョーには声を出す手段もない。舌も歯も目もないことを感覚で悟ったジョーは嘆く。彼は収納庫に移動させられ、鎧戸と鍵のある部屋で看護されることになる。夢の中で「神様だけが唯一の現実」と教える母の声が響いた。
・ジョーは首を振る程度のことは可能だったが、その行動も痙攣と判断され鎮静剤を投与されてしまう。ジョーは幼い頃の父との会話を思い出す。若者は戦争に行かなければならないと考える父は、「民主主義のために一人息子を捧げる」と呟く。納得出来ないジョーはその場から走り去った。首を振っては鎮静剤を投与される日々が続く。ジョーは夢と現実の区別がつかなくなり、夢の中でキリストと呼ばれる男に苦悩を相談するが、何の救いも奇跡もなかった。
・ある日、看護師長がジョーの病室にやって来る。彼女は鎧戸を開け日光を入れ、ジョーは感じた温もりに「これは太陽だ！」と喜ぶ。ジョーの世界に昼と夜の区別が生まれた。別の日、新顔の看護師が病室に入って来る。彼女は涙を流しながらジョーに触れる。優しい手にカリーンを思い出す。夢の中の彼女に出征して何年経ったのかを尋ねるが、答は得られない。
・時は流れクリスマスの夜。優しい手をした看護師は、ジョーの胸に“MERRY CHRISTMAS”と指を滑らせた。ジョーはクリスマスから日数を数えれば季節が分かると喜ぶ。ジョーは製パン工場でクリスマスパーティーが催される夢を見る。社長が従業員に向かって戦争が迫ってきたことを告げ、後退りするジョーがドアを開けると、外の森には父がいた。響くカリーンの声に彼女を追いかけるが、どうしても追いつけず倒れこむ。父は「救ってほしいか？」と尋ねる。しかし救いを求める手段すら持たないジョーに、父は「頭を使え」とアドバイス。そこでジョーは、頭を動かしモールス信号を出すことを試みる。意識と無意識の間を彷徨いながら、手足も目も耳も口も鼻もない今の自分の身体の状態が分かり絶望していたジョーは、その原因を作った戦争指導者たちへの怒りを募らせる。でも人間らしい営みでもある思考は可能で独自の世界を作り上げ、モールス信号で他人とのコミュニケーションを取る。皮膚から伝わる振動で医師や看護師を区別し、額で感じる温かさで時間の経過を測る。こうして孤独の中にあるが、自分は単なる生ける屍ではない人間であり続けていることを訴えた。そんな彼を理解してくれる唯一の看護師の存在が彼の生きる証だった。
・ジョーの行動に気付いた看護師が人を呼び、軍人や神父が病室にやって来る。ジョーに意識があること、そして話しかけていることに驚愕する人たち。何が望みかとモールス信号で問われたジョーは、外に出たい、ありのままの姿を皆に見て欲しいと伝える。それが無理ならいっそ殺して欲しいとも。軍人は箝口令を敷き、ジョーの存在を隠すことにした。繰り返し「殺せ」と伝えるジョーと看護師を残し、軍人たちは部屋を出て行く。優しい看護師は神に祈りながらジョーの酸素の管を鉗子で挟んだ。ところがそこへ上官が戻って来て鉗子を外してしまう。ジョーは死ぬことすら許されなかった。逃げることも自殺することも、助けを呼ぶ声すら出せない。彼は心の中で「助けてくれ」と呟き続ける。ジョーの声が次第に途切れ途切れになっていく。

以上が大まかなストーリー。

この小説は 1939 年に書かれた。そして 1971 年に映画化され、カンヌ映画祭でグランプリを獲得した。

映画ポスター（右が「トランボ ハリウッドに最も嫌われた男」、
左は「ジョニーは戦場へ行った」）

国家は戦争に赴いた兵士たちが亡くなったときに、彼らを“英霊”として利用してきた。それをみてきたトランボは、死者たちがこれ以上国家によって戦争に利用されるのを止めたいという意図を持っていた。「死人に口なし」ではなく、四肢を切断されながらも、思考する能力を保っているジョーを描くことで、戦争指導者たちに人権を侵害することへの異議を申し立てた。別に米国だけに限ったことではないが、自由と民主主義を守り維持するための戦いに、果たして最も大切な命を投げ出す価値はあるのかとつくづく感じている。
この作品の原題は、“Johnny Got His Gun”。これは、第一次世界大戦時の志願兵募集の宣伝文句“Johnny Get Your Gun”という呼びかけへの痛烈な皮肉になっている。

小説の最後に書かれたジョーの言葉を紹介し、今回のテーマを終える。
「生きて、歩いて、話して、食べて、歌って、笑って、感じて、愛して、子どもたちを穏やかで安全で慎ましく平和な環境の中で育てていくからな。名もなき男たちを操るおまえらが戦争を企てて俺たちに指図してきたら、俺たちも銃を向けてやるからな」。

BB）産地現状　：
１）原木、内地挽き製品関係　：
繰り返しの記述で恐縮だが、米材市況は原木、製品ともに荷動きの停滞感が解消されない。盆休み明けからは一部のプレカット会社が受注を伸ばしているものの、価格競争の激化によって、より安価な資材を手当てしようとする傾向が強い。
この最中、国内の米松製材メーカーは、円高による丸太入荷コストの下落を背景に（円高還元という）、米松 KD 平角の値下げを打ち出した。競合する欧州産 R ウッド集成材平角や国内集成材メーカーをにらんで、価格優位性を確保する動きだろう。これにより、少しでも安価な資材がほしいプレカット会社では、

米松 KD 平角の採用比率を引き上げる可能性が高い。一方、羽柄材については、国産材などとの競合によって、引き合いの回復が見出せない。一部では米松使用を継続するユーザーもいるが、ビルダーからの値下げ要請により転換せざるを得ない業者も出ている。今回国内の製材メーカーは羽柄製品価格を下げた理由も、国産材を対象に意識したとみられている。
合板メーカー向けカナダ産米松原木の輸出価格は、相変わらず前月比で横ばい。国内の合板メーカーは減産を継続する中で、国産原木の消化を優先しているため、米松原木への引き合いは改善していない。産地側の販売姿勢も積極性に欠けるため、需給バランスは低位安定といった雰囲気だ。

２）輸入製品関係　：
在来向け輸入米松・米ツガ製品の荷動きは依然として停滞感から抜け出せていない。国内の流通在庫は、入荷量の減少により確実に減少傾向を示している。ただ、需要の停滞と国産材への転換の動きに強く押され、ユーザーからの引き合いは鈍い。産地側の動きについて、第 4 四半期の交渉が始まっているが、日本側の反応は皆無とはいわないものの、非常に静か。交渉妥結は間違いなく 10 月にずれ込み、それにより 10 月積みはスキップになるだろう。国内挽き米松製材メーカーの価格提示は、輸入材潰しではないかとの被害者意識を持つ人もいる。

３）米国の住宅着工　：
米国の 2024 年 8 月の新設住宅着工件数は、季節調整済み年率換算で 135.6 万戸。これは前月比で 9.6%増、前年同月比 3.9%増。集合住宅は微減だったが、戸建て住宅が回復傾向にある。着工件数の内訳をみると、主力の戸建て住宅が 99.2 万戸で半年ぶりに増加（前月比 15.8%増、前年同月比 5.2%増）、5 戸以上の集合住宅は 33.3 万戸（前月比 6.7%減、前年同月比 6.2%減）。先行指標である建築許可件数は年率 147.5 万戸（前月比 4.9%増、前年同月比 6.5%減）。
最近の米国住宅ローン金利は 6.15%と、2 年ぶりの水準まで下落。FRB が利下げを発表したことで、住宅ローン金利がさらに下がることが予想される。住宅需要の盛り上がりが期待されるが、住宅価格は依然として高値を維持しているため、米国の住宅市場の回復にはまだ時間がかかるとみられている。

概況

東京15号地 在庫推移　：

2023年　：

10月30日現在	：	米加製品	32,564	欧州製品 24,831	ロシアその他 53,415m3	計 110,810m3
11月29日現在	：	米加製品	33,096	欧州製品 26,173	ロシアその他 46,718m3	計 105,987m3
12月27日現在	：	米加製品	32,772	欧州製品 28,332	ロシアその他 42,149m3	計 103,253m3

2024年　：

1月30日現在	：	米加製品	37,353	欧州製品 27,525	ロシアその他 41,810m3	計 106,688m3
2月28日現在	：	米加製品	37,138	欧州製品 25,042	ロシアその他 43,238m3	計 105,418m3
3月28日現在	：	米加製品	40,774	欧州製品 27,205	ロシアその他 39,211m3	計 107,190m3
4月26日現在	：	米加製品	41,539	欧州製品 29,595	ロシアその他 39,621m3	計 110,755m3
5月30日現在	：	米加製品	46,321	欧州製品 36,778	ロシアその他 39,494m3	計 122,593m3
6月27日現在	：	米加製品	47,117	欧州製品 41,538	ロシアその他 46,182m3	計 134,837m3

7月30日現在　　:　米加製品 44,515 欧州製品 52,056 ロシアその他 49,152m3　 計 145,723m3
8月29日現在　　:　米加製品 40,709 欧州製品 62,215 ロシアその他 50,604m3　 計 153,528m3

2024年9月26日現在　:
米加製品 39,931m3　欧州製品 65,301m3　ロシアその他（含む中国）53,235m3　 計 158,467m3
前月比4,939m3の増。米加製品778m3減、欧州製品3,086m3増、ロシアその他2,631m3の増。

住宅概況　:
2024年7月の新設住宅着工戸数は68,014戸と前年同月比で0.2%減、3カ月連続の減少。持家は19,858戸、前年同月比4.0%減で32カ月連続の減少。貸家は31,546戸、同4.6%増と3カ月ぶりの増加。分譲住宅は16,164戸、同4.8%減で3カ月連続の減少。持家、戸建て分譲ともに前年同月割れが続いている。貸家は前年同月を上回ったが、全体の着工としては低調に推移している。新設住宅着工床面積は5,206千㎡、前年同月比3.2%減で3カ月連続の減少。7月実績を踏まえての季節調整済年率換算値は77.3万戸（同1.0%増）で3カ月ぶりに増加。9月に続き80万戸割れの換算となった。

以上

9月産地情報の最後に余談
ベトナム以降、ロシア、ニュージーランド、、欧州、北米と産地情報が続きますが、ロシア以降の産地情報の執筆者が9月末にて勇退されます。
よって、今後の産地情報におけるロシア以降の情報の見直しをさせて頂く予定です。ご理解を頂きたく、お願い申し上げます。

これまで、ロシア、ニュージーランド、欧州、北米の産地情報を連載して頂いた執筆者には大変感謝致しております。
また、定期的にお読み頂きました皆様に対しまして、この場を借りまして深く感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

"長き世を　幹太らせし　木の姿
　伐られてなおも　人の手に生きる"

あなたは、長い年月、根を張り、幹を伸ばしてきました。
時には風雨に耐える事もありながらも、常に陽の光を浴びるよう努力を続け、
日々新しい葉をつけて大きくなっていきました。

今、伐採の時が来て、その大きな木は倒れてしまうけれど、
その木はただ終わるのではない。
例えば、机となり、椅子となり、誰かの生活に寄り添い続ける。

笑顔を支え、夢を描く手元に、あなたの一部は残り続ける。

そしてまた、誰かがその木を見て語りかけるだろう。
「この木は、長い間多くの人を支えてきたのだ」と。

弊社のホームページもご利用ください。
https://yuasa-lumber.co.jp